

いちだい地域共創プロジェクト



いちだい地域共創プロジェクトは、本学の教職員や学生が地域の関係者等と協働して、地域社会が直面する課題の解決に取り組むことで、広島広域都市圏およびその周辺地域の地域活性化と持続的発展に貢献することを目的として、2022年度から始めた事業です。



▶2024年度採択事業

01 地域の魅力再発見 ～広島を紙芝居に～

課題提案地域団体：ワンチーム・れきし紙芝居
代表教員：芸術学部 教授 笠原 浩

【活動の目的】

市民団体「ワンチーム・れきし紙芝居」では、広島を紙芝居として伝える活動を行っており、既に6作品が完成しています。今後は新作の制作に加え、既存コンテンツのデジタル化・映像化を通じてアーカイブ化と発信力の強化を目指します。団体メンバーの高齢化により新規媒体への対応が困難なため、協議の上、技術支援と助言を行い、未来へ歴史を継承する体制づくりを支援します。

○2024-2025年度採択事業



02 ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者の安心を取り戻すために

課題提案地域団体：（一般社団法人）Domestic Violence and Child Abuse Center HIROSHIMA
代表教員：国際学部 教授 吉田 晴彦

【活動の目的】

ドメスティック・バイオレンス（DV）は、家族間の負の連鎖や社会的差別、文化的背景など多様な要因が絡み、対策の遅れを招いています。本プロジェクトでは、DVの“初期要因”としての職場環境に着目し、広報・ボランティアの組織化・就労支援の3本柱を通じて、DV被害者が安心して暮らせる社会づくりを目指します。



03 戸山プロジェクト

課題提案地域団体：戸山まちづくり委員会定住促進部会
代表教員：教育基盤センター 特任講師 三上 賢治

【活動の目的】

安佐南区戸山地区では、人口減少と少子化への対策として、住民主体の定住促進活動を約7年前から実施し、「年間3組の子育て世帯の移住」を目標に取り組んできました。これまでに22世帯の移住と4店舗の開業を実現し、人口減少の緩和が見られます。移住希望者には直接説明を行っていますが、口頭では伝えきれない情報も多く、家族で検討しやすい分かりやすい媒体の整備が求められています。



04 デジタル技術による福王寺の魅力発信プロジェクト

課題提案地域団体：福王寺山魅力アップ市民プロジェクト実行委員会
代表教員：情報科学研究科 講師 馬場 雅志

【活動の目的】

2028年に開基1200年を迎える福王寺。様々なお宝が地域の貴重な資源であることを多くの方に知っていただくために、デジタル技術によって歴史ある不動明王の3Dデータ化を行い情報発信・活用することで、可部地域の『文化のまちづくりプロジェクト』の気運醸成を進めていく。



05 広島湾岸トレイル構想事業 山歩きの魅力と効能の考察とPRツールの制作 ○2023-2025年度採択事業

課題提案地域団体：広島湾岸トレイル協議会
代表教員：芸術学部 准教授 藤江 竜太郎

【活動の目的】

広島湾岸トレイルは、山・川・街・海・島を巡る全長291.9kmの都市隣接型周回トレイルで、世界でも類を見ない魅力を持ちます。市民が立ち上げたこの道は、現在も高齢の市民団体によって維持・運営されていますが、継続性が課題となっています。そこで本学学生が実際に歩いて体験し、若者ならではの視点で魅力をPRツールで発信することで、若年層やファミリー層の利用を促進し、将来的な整備・運営への関心を高めることを目指します。



06 熊野町つなぐプロジェクト

課題提案地域団体：熊野町つなぐプロジェクト
代表教員：教育基盤センター 特任講師 三上 賢治

【活動の目的】

熊野町には自然や多目的施設、飲食店などが点在するが、町内外の認知度が低く利用も少ない。役場や施設からの広報にも課題がある。本プロジェクトでは、地域と協働しSNSを活用した情報発信を行い、人と人、人と場がつながる環境づくりと、熊野地域への関心向上を目指す。

○2023-2024年度採択事業



07 だんばらのえんこうさん

課題提案地域団体：段原おやじの会
代表教員：芸術学部 講師 城井 文

【活動の目的】

大規模再開発で町並みが一変、人々の生活や近所の交流も変化した。再開発が落ち着いてから数十年が経過し、過去の状況を知らない住民が増えている。提案団体では地域への愛着を醸成するための手段として、歴史を振り返る段原本第一弾を作り、第二弾として、この絵本の製作に取り組んでいる。2024年度に、絵本（データ）が完成したので、2025年度はこれを活用して地域に広めたい。

○2023-2025年度採択事業



08 コロナ禍でも健康体操で交流したい。もっと。

課題提案地域団体：比治山学区社会福祉協議会
代表教員：情報科学研究科 准教授 岩根 典之

【活動の目的】

地域コミュニティの連携強化と活性化を目指し、健康維持活動の持続環境を学区全体に展開する。光回線開通の集会所間や多様な主体と連携し、①未整備の5集会所の巻き込み、②ICT活用可能な高齢者の増加、③対面・オンライン両対応のハイブリッド環境の地域主体による運営を進める。

○2022-2024年度採択事業



09 アーティストのために整備した「AIR Hiroshima Studio」と「AIRHiroshima Gallery」の活用による地域の文化・芸術の振興への寄与

課題提案地域団体：横川エリアマネジメント連絡協議会
代表教員：芸術学部 准教授 石谷 治寛

【活動の目的】

横川を全国のアーティスト・イン・レジデンスとつなぐ「サテライト・レジデンス」として位置づけ、他地域滞在中のアーティストが立ち寄り、地域リサーチや制作を行える短期滞在拠点を目指す。関連施設や地域アート活動の調査、ネットワーク構築、広報物の作成を通じ、芸術による地域交流の場づくりを推進する。

○2022-2024年度採択事業

